

# カシオ「サステナビリティレポート2013」に対する第三者意見

当意見は、本報告書（ウェブ版）の記載内容、および同社の環境・資材・人事・CSRの各担当者へのヒアリングに基づいて執筆しています。同社のCSRへの取り組みは、環境負荷削減を中心としたPDCA（マネジメント・サイクル）が、全社を挙げた取り組みに拡がることで強く期待される段階と言えます。

## 高く評価すべき点

- 中長期的な環境経営方針について、低炭素社会・資源循環型社会の実現と自然との共生・生物多様性の保全を主題に掲げ、温室効果ガスについては2020年度と2050年度の目標を掲げるとともに、包装や物流まで環境負荷削減を拡げていること。特に取扱説明書やパンフレットなどに用いられる紙について、古紙、森林認証材や適法な伐採による材などを利用しているかを確認する調査を開始したことを、高く評価します。今後も、グループやサプライチェーンの内部はもとより、最適な利用方法をナビゲートし、廃棄時のリサイクル率を向上するなど、顧客を巻き込んだ製品のライフサイクル全体に及ぶ取り組みの進展と、その進捗の情報開示に、引き続き強く期待します。
- 調達先のCSRへの取り組みについて、環境負荷削減や働く人々の人権への配慮・対応などを5段階でたずねるアンケートに中国の159社から回答を受け、集計結果に基づくフィードバックや一部の企業には訪問調査を行うとともに、集会時に事例紹介するなど、把握と可視化を続けたこと。今後は、調達先の自己評価にデータなど検証可能な根拠の明示を求め、工夫や課題の具体的な可視化と把握をさらに進めて、事例の共有や表彰、課題解決に向けて交流する体制がさらに進むことを、引き続き期待します。

## 取り組みの進捗を評価しつつ、さらなる努力を求めたい点

- CSR推進体制について、ISO26000の中核主題から人権と公正な事業慣行に重点を置いて取り組みを進めるために、国内外のグループ会社32社に調査を行ったことを評価しつつ、今後の世界経済や他社の動向を見据えた上で、環境経営方針と同様に、中期的な目標と指標の設定に基づく実践と課題の検証が進むことに、引き続き強く期待します。また、グループ全体におけるCSR推進文化の醸成についても、社内報「かしお」でCSRに関する連載を続けていることを評価しつつ、今後は、グローバルなCSR推進担当者を各拠点・部門に配置し、経営層からのメッセージを多言語に翻訳して世界各国の現場に伝え、現場で働く従業員が、本社や各国の拠点での動向を早期に、かつ深く理解する機会が増えることに、引き続き強く期待します。
- 従業員の働き続けやすさの向上について、育児・看護・介護のための休業・短時間勤務の利用者が、カシオ計算機において4.72%に達することを評価しつつ、今後は、家族を介護・看護しながら働き続けたり、業務以外の理由でも悩みを抱えたりする従業員の増加も見込まれることから、介護支援制度の利用者の事例紹介や「なんでも相談」の機会が、さらに積極的に設けられることに期待します。
- 障害を持つ従業員の雇用について、国内連結平均で法定水準以上を回復したことを評価しつつ、今後は障害の種類や職種などに基づくコミュニティづくりを進め、働き続けやすさの向上が促されることに、引き続き強く期待します。

## 一層の努力が求められる点

- グループ全体の人的多様性の向上と活用について、グループ全体の近未来を視野に入れ、部門や法人の枠を超えたグローバルな人的ポートフォリオを想定し、採用・育成・交流を統括して推進する体制や、各国のナショナルスタッフも統合的に把握する人材データベースの拡充など、真にグローバルな企業として人的な多様性を積極的に活用できる戦略と体制の整備をさらに進めることを、引き続き強く期待します。
- 本報告書の記述内容として、環境負荷削減に関するデータについては、グループ会社を含む国内外の主要拠点の詳細を紹介していることを評価しつつ、環境以外、特に人事・調達関連の取り組みやデータについても、グループとしての報告書としての精度を高めることを、引き続き強く求めます。

IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者 川北 秀人

IIHOE：「地球上のすべての生命にとって、民主的で調和的な発展のために」を目的に1994年に設立されたNPO。主な活動は市民団体・社会事業家のマネジメント支援だが、大手企業のCSR支援も多く手がける。

<http://blog.canpan.info/iihoe/> (日本語のみ)



川北 秀人